

## 会 議 録（抄）

	第 15 回 唐津市子ども・子育て会議
開催日時	令和 6 年 3 月 2 2 日（金） 10：00～11：30
開催場所	唐津市役所 大会議室
出席者	山口委員（会長）、田中委員、本吉委員、松下委員、鈴木委員、岸本委員、井本委員、石田委員 8 名出席 ※順不同
議題	（1）「こどもの生活アンケート」及び「ニーズ調査」実施内容について （2）「唐津市子ども・子育て支援事業計画」次期（第 3 期）計画策定へ向けたスケジュールについて 〔報告〕認定こども園への移行及び保育所の廃止について
資料	資料 1：こどもの生活アンケートの実施について 資料 2：ニーズ調査の実施について 資料 3：子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール（案） 資料 4：保育所から認定こども園への移行について 保育所の廃止について

会 議 内 容
<p>10:00 開会            &lt;資料の確認&gt;</p> <p>&lt;会議成立の報告&gt;            （事務局）本日は委員 14 名中 8 名で、半数以上の出席により会議成立となる。</p> <p>&lt;会長あいさつ&gt;            （会 長）唐津市子ども・子育て支援事業計画については、次の計画期間に向けて計画策定に取り組むため、本日は事前調査や今後のスケジュールについて、委員の皆さんへ情報共有が図られることとなる。            計画を策定するにあたり、この会議で十分な審議を行うこととなるため、こどもたちや子育て家庭の現状に詳しい皆さんから、様々な意見をお聞かせ願いたい。</p> <p>&lt;以下、会長の進行&gt;</p> <p>●議題 1 「こどもの生活アンケート」及び「ニーズ調査」実施内容について            【資料 1 に沿い事務局より説明】            （事務局）令和 6 年度に「唐津市子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり、こどもの生活実態や子育て家庭の支援ニーズ等を把握し、今後の施策の基礎資料とするため、「こどもの生活アンケート」を実施したところである。対象者は、市内の小学 5 年生、中学 2 年生の児童生徒とその保護者、更に各学校の担任及び副担任、養護教諭とし、児童生徒についてはタブレットを用いた WEB 調査、保護者には紙の調査票を配付、学校の先生方は学校の PC を用いた WEB 調査により行った。</p>

具体的な調査内容としては、こどもの生活状況や家族の収入、行政支援の利用状況などに関する質問について回答を得たほか、ヤングケアラーの認知度や実態に関する設問も設けた。

現在、こどもの貧困に関する計画として「からっつ子未来応援プラン」を策定しているが、本計画は令和6年度末をもって計画期間満了となるため、令和7年度からは「子ども・子育て支援事業計画（第3期）」に含めることとし、今回の調査結果については次の第3期計画に反映させることとする。

また、ヤングケアラーに関する調査結果を先の第3期計画に盛り込むか否かは検討事項となるが、調査結果を踏まえたうえで、今後の支援策の検討や関係機関への情報共有を行いたい。

#### 【質疑】

（岸本委員）市内の小学5年生と中学2年生を対象に行ったとあるが、対象者はランダムに抽出したのか。

（事務局）市内の学校に通う小学5年生全員と中学2年生全員を対象に実施したものであり、無作為に1,100名を抽出したものではない。

（石田委員）保護者についても、WEB調査での実施にできなかったのか。

調査票は子どもを通じての配付とのことだが、調査票が保護者全員の手に渡ったのかどうかも気になるところである。

（事務局）保護者用のアンケートについては、こども用の調査内容と異なり、世帯構成や年収など設問内容が複雑になっているほか、回答も単純な選択性ではなく、回答フォームの構造も携帯のような小さな画面での閲覧には適さない形であったため、紙媒体での実施を選択した。

また、保護者からの提出先を学校にすることで、回収率を上げるという意図もあった。

但し、現時点では回収率も明らかではないため、今回の回答状況や回収率を見たとうえで、より最適な調査方法を検討し、次へ活かす必要がある。

（会 長）児童生徒、保護者、担任や養護教諭といった調査対象ごとに、設問内容も異なると思うが、アンケート中でどのような問いかけを行ったのか教えて欲しい。

（事務局）児童生徒向けの設問としては、学校生活についてであれば「学校を欠席することがあるか」、「自身の勉強の理解度をどう感じているか」など、家庭生活であれば「朝食をとる頻度はどのくらいか」、「日常の生活に満足している」などの項目を設けた。

（会 長）どれくらいの設問数であったのか。

（事務局）全部で32問であったが、選択する回答内容に応じて、次の関連質問へ進む場合もあれば、関連質問には答える必要が無い場合もあるため、必ずしも全員が32問を回答するものではなく、最大で32問となる。

また、保護者向けの設問としては、世帯収入をはじめとする生活状況や就労状況に関する問いが中心となっている。

教職員向けの設問については、ヤングケアラーについての問いが主であり、「ヤングケアラーではないかと思われる児童生徒がいるか」、「そう感じたきっかけは何か」などの項目を設けた。

（会 長）アンケートを実施したなかで、支援を必要とするこどもや保護者の存在を把握した場合は、適切な支援につなぐ必要があると考えるが、その点についてはどう考えているか。

(事務局) 家庭の経済状況をはじめ、個人的な情報に関するアンケート内容であったことに加え、こどもたちが安心して本音を書くことができるといった観点から無記名方式をとっており、アンケートの回答内容から即座に対象者と支援を結びつけることは難しいが、今回はまず実態を把握することが重要だと捉えている。

但し、実態を把握した後には、次の段階として支援のあり方を検討すべきであり、こどもたち向けに相談窓口を広く周知する、求められている支援の充実を図るなど、具体的な施策の展開につなげたいと考えている。

(岸本委員) 無記名でアンケートを実施し、困りごとを抱える人の存在を把握すること自体は良いと思うが、すぐに結果が出ないと意味がないのではないか。

(事務局) アンケート結果については集計作業を行っている段階であり、その結果を基に、この先5年間(令和7~11年度)のこども施策の方向性を示す計画を策定するものである。

調査については、次回の子ども・子育て会議で委員の皆様へお示ししたい。

(岸本委員) 調査結果がまとまったのち、いつ助けるのか(支援するのか)という点が最も重要であり、例えば調査実施から2~3年後に支援の提供を受けても意味がないと考える。

(事務局) 調査結果は次期計画策定の基礎資料として用いるが、今回の調査は計画策定だけが目的ではなく、こどもたちを取り巻く環境の実態や求められている支援を把握するためのものであり、その結果を踏まえ行政としても出来る限り速やかに、かつ継続的な支援に取り組みたいと考えている。

具体的な支援の時期を示すことは難しいが、今後5年間をかけて支援を行うという意味合いではない。

(会長) 計画については、市の子育て支援の大きな方向性を示すものであると理解しているが、これだけの規模のアンケートを実施してあるので、調査結果から見えてくる事象があれば、可能な限り個別支援につながるよう努めて欲しい。

(会長) 保護者の声を聞く場合、PTAの方々を巻き込んでの実施も効果的なのではないかと思うが、実際に保護者の声が届いて、PTAの皆さんが動くというような事例はあるのか。

(本吉委員) 具体的な事例はないが、必要に応じて学校と連携をとることは可能だと考える。

#### 【資料2に沿い事務局より説明】

(事務局) 「こどもの生活アンケート」と併せ、子育て支援に関する「ニーズ調査」を実施したものであり、子育て家庭における教育・保育サービス等の利用状況や今後の利用希望、子育て環境についての回答を得ており、次の「子ども・子育て支援事業計画(第3期)」の基礎資料とする。

対象者は、就学前児童の保護者2,000名、小学生の保護者2,000名を無作為抽出し、紙の調査票を郵送配付・郵送回収する手法にて行った。

調査内容としては、保育所や児童クラブ等のサービスの利用状況や今後の利用希望のほか、育休の取得状況や子育てにおいて行政に求める役割等に関する設問を設けた。

設問の傾向としては、主に教育・保育の量の見込みを算出するための質問と、本市における子育て支援策を検討するための質問で構成されており、次期計画の策定にあたっては、現計画の実績や児童人口推計をベースに、アンケート結果を考慮しつつ、見込み量(サービス需要量や目標量)を設定することとなる。

また、こども施策の策定や実施にあたっては、こどもの意見反映が求められるため、効果的な意見聴取の手法についても検討中である。

【質疑】

(田中委員) 例えば社員が看護休暇を取得できる労働環境づくりに努めている会社に対して、市が「(仮称)唐津市子育て支援企業」と認定し、税制優遇措置を行うといったような取り組みがあったらいい。

(会長) 子育て支援は行政だけが担うものではなく、地域や企業での取り組みも重要だと考える。

(井本委員) 市内企業の全体像を把握してはいないが、自身の勤める職場の例でいくと、以前から女性社員の育休取得率は100%に近いほか、新たに制度化された男性の育休(パパ育休)についても、今年度対象となる男性社員の取得率がほぼ100%と見込まれている。

勿論、人員に余裕があるわけではないが、知恵を出し合いながら若手職員が働きやすい環境づくりに努めつつ、企業としての発展を目指している。

(会長) これまで、保護者をはじめ、子育てに関わる事業者や企業といった多分野の関係者が集まる場がなかったため、次期計画の策定にあたっては、本会議とは別に意見交換できる場を設け、唐津市にとってどのような形での子育て支援が最適なのかアイデアを出し合う機会があれば良いと感じた。

(会長) 今回の調査項目については、5年前に実施した内容とは変わっているのか。

(事務局) 本市の子育て環境を把握するうえで、経年変化を追いたい項目については今回の調査にも残している一方、新たに設けた項目もある。

(会長) 調査結果については、先の「こどもの生活アンケート」と同様に次回の会議にて報告をお願いしたい。

●議題2 子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール(案)について

【資料3に沿って事務局より説明】

(事務局) スケジュールについては、あくまで現時点の見込みのため、今後柔軟に修正をかける可能性はあるが、令和6年度末までには計画策定を完了させるものである。

令和6年度中については、本会議の開催を少なくとも4回予定しているが、会議での審議を重ねながらの策定となるため、ご協力願いたい。

(会長) こどもの意見聴取に関しては、事務局でもその手法を検討中だと思うが、大人がどのように考えているのかをこどもたちに知って欲しいし、こどもたちも大人と一緒に考える機会になればと考えており、こどもが自由に話せるような場を設けることができたら良いと思う。

(事務局) 小学5年生、中学2年生と対象者は限定されているものの、アンケートによるこどもの意見聴取は今年度に行ったため、できれば違った手法で実施したいと考えてはいるが、詳細については決定していない。

やはり、こどもたちが安心して発言できることが大切であり、ファシリテーターの果たす役割が重要だとは感じている。

(会長) 先日、地域福祉計画策定に関する座談会へ中高生と共に参加したが、参加者のこどもたちが様々な意見をしっかりと持っており、唐津を好きでいてくれていることに驚かされた。

将来の唐津を担うこどもたちを巻き込んで、共に考えることが大事である。

(鈴木委員) こどもの本音を聞くことができるのは、やはり子どもたちと一緒に過ごしている時だと感じる。

(松下委員) 子どもたちの表情が見えないなど、マスクを手放すことができなかったコロナ禍での保育がもたらした影響は大きかったと感じている。

子育ての観点から働き方を見直すという動きも出てきているが、現実にはまだまだ厳しい労働環境にある保護者さんも見受けられる。

(会長) コロナの影響をはじめ、子どもたちの周りには物価高騰による経済的困窮も顕著に現れていると感じるため、次期計画の策定においては、そういった視点も盛り込む必要があるかもしれない。

(会長) 令和6年度中に計画策定を行った後、計画期間途中での見直しはあるのか。

(事務局) 将来的には、次期計画が他の計画に包含される可能性も否めない部分はあるものの、当該計画については従来より計画期間の3年目に中間見直しを行う機会を設けており、そのタイミングで見直しの必要性を判断している。

### ●報告 認定こども園への移行及び保育所の廃止について

#### 【資料4に沿い事務局より説明】

(事務局) 認定こども園への移行について

令和6年4月から、保育所「呼子保育園」が幼保連携型の認定こども園「呼子こども園」に移行するもの。

※保護者の就労状況に関わらず、満3歳以上児の受け入れが可能となる。

(事務局) 保育所の廃止について

令和6年3月をもって、保育所「加部島保育園」が児童数減少により閉園  
※在園児については、転園が決定している。

(事務局) こども誰でも通園制度について

令和6年4月より、保護者の就労の有無に関わらず保育所等を一定時間利用できる「こども誰でも通園制度(仮称)」の試行的事業を実施するもの。

※実施施設：公立保育所2園(若葉保育所、若竹保育所)

※対象児童：0歳6か月から満3歳未満(保育施設に通っていない児童)

### ●その他

(岸本委員) 例えば不登校である子どもたちについては、今回のアンケートでは声を聴くことができないと思われる。本当に困難を抱える人、本当に支援を必要とする人の声をどうやって拾うのかという点が課題である。

(本吉委員) 地域の中にも、子どもたちの状況をよく把握している方々がいらっしゃるため、民生委員や行政連絡員の皆さんを対象にアンケートを実施するという手法も検討してみてもどうか。

(会長) 今後も引き続き、活発な意見交換の場となるようご協力願います。

(事務局) 本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。

来年度も引き続きよろしく願いいたします。

11:30 閉会